

まちづくりワーキング

まちづくりセンター ワーキングスタッフ (代表 三品 弘さん)

開設時間

毎週月曜日～金曜日
午前10時～午後4時

まちづくりセンターは、中心市街地活性化基本計画を策定した「まちづくりワーキングスタッフ」が中心となって開設されました。ここから新しいまちづくりの情報を発信していきます。そのワーキングスタッフ代表の三品弘さんにこれからの活動について伺いました。

「まちづくりセンターに対する思いは？」

昨年度、中心市街地活性化のワーキングスタッフとして、「これからのまちづくりをどうしたらよいか」話し合ってきた中で、これからは、市民が積極的にまちづくりに参加をすることが必要ではないか。そのためには、話し合える場が必要ではないかと言ふことになり、みなさんの協力により開設することができました。開設したばかりなのでゼロからの出発ですが、ここで、みなさんとまちづくりについて意見をどんどん交換していきたいです。

これからの時代は、特色あるまちづくりが求められると思います。その特色というものをみんなで考えていきたいと思っています。中心市街地は、いわば市の顔だと思います。そこが元気がないと、市全体が元気ないように思えるのです。

「市街地に空店舗が目立つようにな

りました

市街地の店主も高齢になり、後継者問題など苦慮してみえると思うのです。そんな人たちにもまちづくりセンターで支援することができればいいなと思っています。昔からあったお店がなくなるのは、寂しいじゃないですか。なんとか、お手伝いしたいですね。



写真上：まちづくりワーキングがはじまりました



写真左：まちづくりについて語る三品さん

「まちづくり活動の拠点」 「まちづくりセンター」がオープン



まちづくりセンター
電話・ファックス 24・7771

市中心市街地の活性化に向けた拠点として、「まちづくりセンター」がオープンしました。同センターは、市民のみなさんにまちづくり活動に興味・関心をもっていただき、市街地の活性化を考えようとする「まちづくりワーキング」や「美濃加茂国際交流協会」、「子どもセンター」が入居し、市民レベルのまちづくりを進めます。

子どもの遊びと学びの情報発信

みのかも 子どもセンター

みのかも子どもセンター協議会（代表 三輪常夫さん）

開設時間

毎週月曜日～金曜日
午後1時～4時

「私たちは、市内の子どもに関わる各種の団体が、それぞれ活動しているため、なかなか情報交換する場がありませんでした。こうして、拠点ができたことにより、今後はそれができるようになりまし。例えば、団体の情報が欲しいという場合、ここに相談していただければ、対応します。」

「また、子どもたちが参加できるようなイベント情報もぜひ連絡してください。私たちが出している情報誌「どーなっつ」で紹介していきたい」と

みのかも子どもセンターは、平成10年、市内のボイスアウト・ガールスカウトなど9団体で結成されました。今までは、中央公民館で活動していました。子どもセンターには、アシスタント2人が常駐して、子どもに関わる「あそび」と「まなび」の情報を収集・整理しそれを市民に提供しています。また、各種の少年団体による代表者会議を開催して、子どもたちが、より多くの体験の場がもてるよう情報の交換や発信をしています。

「何ができるかまだ手探りの状態です。でも、こうしていつでも集える場ができたことは励みになります。ここを拠点に何ができるか積極的に探していきたいです。」

「私たちが子どもセンターでは、子ども情報誌「どーなっつ」を発行しています。この4月で4号の発行となりまして、読者である子どもたちの反響が大きいです。ことに驚いています。そんな子どもたちが、町へ出かけてきたらぜひ立ち寄って欲しいですね。そして、ここで子どもたちとまじり話ができる話があればと思います。」



写真左：国際交流について語る三輪代表

国際交流の情報発信

美濃加茂国際交流協会 ミーティング・ポイント

開設時間

毎週月曜日～金曜日
午前10時～午後4時

美濃加茂国際交流協会（会長 山田實紘さん）

美濃加茂市の国際交流の歩みは、平成元年ダボ市との姉妹都市提携を発端に、平成3年に国際交流協会が設立されたことにより、一層活発になりました。以後、ダボ市との青少年の相互交流は、今年で13年目を迎え、ダボ市派遣青少年者数は、この夏で延べ110人となります。この交流により、多くの青少年が国際感覚を身につけ、貴重な経験からたくさんのことを学びました。

一方、平成2年4月311人だった在住外国人は、今年4月現在、約3300人までになり、この10年で10倍も増加しました。

しかし、在住外国人が、これだけ増えてきたにもかかわらず、市民と交流する機会があまりなく、お互いの生活習慣など理解できていないのが現状です。

そこで、外国人用の生活ガイドブックを発行して社会生活のルールを知らせたり、公共施設には、外国人にもわかるよう利用案内の標識を設置するなど、市内での国際交流を進めています。

このように、多様化してきた国際



交流について、国際交流協会会長の山田實紘さんにこれからの活動について伺いました。

「これからの国際交流協会の活動は？」
「今までの10年間は、外国に目を向けていました。しかし、これからの国際交流の活動としては、やはり市内に住んでいる外国人との交流をどのように進めていくかではないでしょうか。」

「もちろん、今でも「世界の料理教室」などを行って交流する機会があります。」
「ここは駅から近いし、スペース的にも兼ねせずに利用できるのではないのでしょうか。ここで、在住外国人とまちづくりの話をして面白いのではないですか。」



写真左：国際交流について語る山田会長

写真上：ダボ市派遣学生たちによる国際交流ミーティング